

2019年7月1日

北海道知事 鈴木直道様

北海道建設部長／環境生活部長／農政部長／後志総合振興局長／小樽建設管理部長  
尻別川圏域河川整備計画検討委員会委員長 各位

## 北海道工事によるイトウ生息環境損壊の再発防止を要望します

尻別川の未来を考えるオビラメの会  
副会長 吉岡俊彦 事務局長 川村洋司  
048-1511 北海道虻田郡ニセコ町ニセコ315-198  
電話090-8279-8605 kawamura3795@castle.ocn.ne.jp  
obirame.sakura.ne.jp/index.html

当会は、絶滅危惧種イトウ尻別川個体群の保全・復元をめざして活動している市民グループです。

地域内外のみなさまのご理解・ご支援をいただきながら、自然繁殖地の復元・保護手法を確立するなど、絶滅危惧個体群のレスキューに大きな成果を上げつつあり、18年2月、北海道知事より「第1回 未来へつなぐ！北国のいきもの守りたい賞」を受賞しました。道民のみなさまのご期待に添うべく、一層の責任感とともに努力を続けているところです。

ところが今年になって、北海道後志総合振興局小樽開発建設部が倶知安町内で実施した「H30 倶登山川災害復旧工事（単独）1工区～3工区」により、延長2150mにわたって河岸植生や表土が除去され、重要なイトウ生息・繁殖環境が損壊してしまいました。

この区間は、当会のイトウ再導入実験によって再生・復元したイトウ繁殖地のまさに核心部です。2008年から11年にかけて、北海道後志総合振興局と当会の協働による落差工改修（全5基に新型魚道を設置）が奏効し、翌12年から8期連続で再導入イトウの回帰と自然繁殖が確認されていました。

このたびの「災害復旧」工事について、当会は着工前から数度にわたって同建設部真狩出張所に対し「流域住民のみなさまの安全とともにイトウ生息環境保全にも配慮してほしい」と伝達し、着工前の計画説明と協議の約束を交わしていましたが、結果的に反故にされてしまいました。きわめて残念です。

この5月、工事区間では、従来の再導入イトウたちに加え、複数の再導入第二世代野生魚の繁殖遡上が初めて確認されました。産卵行動をとる個体も観察されましたが、仮に川底で卵が孵化したとしても、産卵床を泳ぎ出した稚魚が生育していくのに不可欠な河畔植生が失われた現状では、世代交代に十分なほどの生き残りは期待できません。以上をふまえ、下記の要望をお伝えします。

1. 希少種の重要生息地との認識を持ちながら、河川法にも反するこのような環境破壊に至ってしまうのは、北海道の工事マニュアルそのものに瑕疵があるためと考えざるを得ません。すみやかに検証し、実効ある対策を講じてください。
2. 尻別川や道内の他のイトウ生息地や復元サイトにおいて、二度とこのような事態を招かないよう確約し、道民に広報してください。
3. 現在、当会がイトウ繁殖河川として保全活動を行なっている区間（今回の生息環境損壊区間を含む）において、北海道として今後どのような保全対策を考えていくのか、お示しください。

この要望書は当会ホームページなどで公開します。

ご回答は2019年7月31日までに文書で当会事務局あてに送付ください。